



お問合せ先

Mark Wilton

CIP4 Education & Marketing Officer

CIP4 Organization

Email: mark.wilton@kodak.com

Phone: (+1) 604-451-2700 Ext. 6484

2007 年 CIPPI アワード受賞者発表

応募者からの事例が新レベルへの扉となる

東京 (2007年9月21日) プリプレス、プレス、ポストプレスのプロセス統合に関する国際協力 (CIP4) 組織は、2007年ユルゲン・シューンハット記念CIP4国際印刷製造革新賞 (CIPPIアワード) の3部門の優勝者と準優勝者をIGAS2007で発表いたしました。CIPPIアワードは、以下の3部門において最も画期的な事例を収めた応募者に毎年与えられています。その3部門は、

- プロセス自動化技術を最も革新的に活用した事例。
- プロセス自動化の結果、最もコスト削減と利益向上を実現した事例。
- プロセス自動化の結果、効率面で最大の成長を遂げ、
- かつ顧客対応を実現した事例。

「プロセス自動化技術を最も革新的に活用した事例」の部門で驚きの1位に輝いたのは、1つの印刷会社ではなく2つの印刷会社と、今回この連結プロジェクトを申請した1つの出版・印刷販売業の3社です。Druckhaus Berlin-Mitte GmbH (DBM Germany), Walter Grieger Offsetdruck OHG (WGO Germany) と Gutenberg-Werbering Gesellschaft m.b.H. (Gutenberg - Austria)の3社です。この3社は、Hiflex MIS, Hiflex Print Support, KBA, MAN Roland と Kodak Graphic Communications Group社の機器を統合しました。DBMを筆頭に、「Hiflex Print Support」の新しい印刷調達システムを開発。そのシステムでは、Gutenbergが効率的に見積もり (RFQ) を作成でき、電子メールで (JDFを添付して) DBMに送信できるようにしています。このDBMとGutenbergの通信には管理とデータ処理の両方にJDFを利用しています。一度生産への作業信号がだされると、DBM内部のJDF対応ワークフローがRFQに加えられたデータを利用し、Hiflex MISで工程予測し、JDF対応のプリプレス・システムとKodak社のソフトウェアにデータを転送、またJDF対応のMAN Roland社のプレス機にもデータ転送します。パッケージ印刷のRFQは、Hiflex Print SupportとHiflex MISシステムとJDF対応のKBAプレスを利用しているWGOに下請け契約されています。DBM、WGO、Gutenbergの事例はCIPPIアワードの応募の中で、JDF対応の多機種統合が最も特徴付けられていました。CIPPIアワード審査員で1PRIME-concept

のPatrick Cahuetは、「DBMは、JDFを幾つものベンダーと企業環境の中で実装することで、新しい標準を確立した。」と述べています。

「プロセス自動化技術を最も革新的に活用した事例」部門の2位は、従業員数が35名の日本の印刷会社、株式会社ダイムです。ダイムが掲げた目標は、ワークフローを完全にデジタル化することでした。ダイムは、独自の自動化プロジェクトをOliveのPrintSapiens MISシステム周辺に構築し、それをScreen社のTrueflowやKomori社のK-Stationを利用したあらゆる生産工程へと統合させ、また自動工程のスケジュールやプリプレス、印刷も可能にしました。この開発で、同社は2つの設備を統合しました。生産操作や伝達の廃棄物を削除させ、新しい校正ワークフローを造り上げ、マニュアル操作での誤りを格段に減らしました。この結果、通常業務や単純繰り返し作業ではなく、スタッフがさらに知的労働に力を注げるようになりました。

「プロセス自動化の結果、最もコスト削減と利益向上を実現した事例」部門の優勝は、ノルウェーのPDC Tangenが獲得しました。同社は、同社の事例の中に、JDF導入前と後の状況説明をとて詳細に記載。本日まで同社は、6つの印刷プレス（Mitsubishi とKomori の37機種）と、3つの折り機（MBO）、プリプレス(Kodak)をJDF対応のMIS (Hiflex MIS)と全てネットワーク化し、JDFで取りまとめました。プリプレスはStrippingを受取り、フォルダーは折物や折カタログのタイプ、ポジション、サイド、トップ配置等の詳細が事前設定されています。最初に全自動工程で引き受けた印刷依頼は、2007年6月でした。投資利益率としては、同社はJDF導入により5年で20倍の効果となり、1847.2%の成長利益を生み出します。プリプレスに関しては25%の生産性の向上、折に関しては15%の生産性の成長、そして透明印刷、作業追跡、横組み、柔軟性確認等の全体的な作業も飛躍しました。2005年度と比べ、2006年度に自動工程を実装し、PDC Tangenは20%超の労働者を失ったのですが、900%増の純利益となりました。

PDC TangenのJDF対応の自動生産工程実装アプローチについて、CIPPIアワード審査員のClemson大学のJohn Leiningerは、こう考えを述べています。「彼らの事例は、健康的なライフ・サイクルのようだ。緊急処置ではなく、永久的な軌道修正だ。感服だよ。」

「プロセス自動化の結果、最もコスト削減と利益向上を実現した事例」部門の準優勝は、日本のヤマゼン コミュニケーションズ株式会社です。同社は、従来の印刷サービスだけでなく、お客様のウェブ・ポータル開発も提供しています。従業員数



T-シャツには、「PDC Tangenの良質な印刷技工士。JDFを使う。」とプリントされています。同社が全生産工程にJDFを導入した日に全従業員が受け取りました。

は86名、年利12億円の企業です。同社は、2000年に革新的なweb-to-printサイトを立ち上げました。幅広い印刷物を生産するために、Heidelberg社のJDF対応商品をプリプレスとプレスに実装し、Tosbac Systems社のMISシステムをインストールして同社の自動生産ワークフローを完成させました。同社は、生産準備時間を短縮し、プリプレスの印刷廃棄物も削減、また作業追跡や納期管理にかかる時間を日に160分削り、1回のプリプレス処理時間を10分縮めることに成功しました。同社の投資現価値は合計230万ユーロ、1584.16%のROI（投資利益率）があります。

「プロセス自動化の結果、効率面で最大の成長を遂げかつ顧客対応を実現した事例」部門で1位を収めたのは、リヒテンシュタインのBVD Druck & Verlag AGです。特徴的だったのは、同社の2003年に開始し2008年に完成予定のend-to-end JDF対応機の統合プロジェクトでした。同社が現在JDF対応機の統合に利用しているシステムは、HeidelbergのPrinect Integration System、Prinect Printready System、Prinect SignaStation、Prinect MetaDimensionとPrinect Pressroom Managerです。BVDは、HeidelbergのPrinect Postpress Managerを加えてポストプレス操作を統合する工程段階で、また他にXerox iGen3とSpire RIPをHeidelbergのPrinect Digital Print ManagerのJDFワークフローと統合して、実装を完成する予定もあります。BVDの応募申請書によると、「作業生産用のデータと生産プロセスのモニタリング（追跡）は、1つのシステムに連結されていて、作業に関わる誰もが最も頼りになる情報に簡単にアクセスできるようになっています。作業管理や作業ステータスの認識も一層簡単になっています。」BVDの自動化プロジェクトの結果、同じ資源から生産の可能性を拡大し、大きく営業利益を向上させましたが、作業準備・プリプレス・ポストプレスのコスト体制はそのまま推移しました。BVDは、以下の理由から、ROIを938%と計算しています。

- 高速化された反応時間
- 安全性が高まった工程により、従業員の満足度が向上
- 顧客の満足度の向上と、それによる長期的な顧客の定着
- プロセスと内部スキルの継続的な成長
- 特別に従業員を配置することなく、永久的に商品コストを分析

「プロセス自動化の結果、効率面で最大の成長を遂げかつ顧客対応を実現した事例」部門の2位は、カナダの印刷会社Ampersand Printingに与えられました。審査員の記録によると、同社は、「ワークフローの中からどのように隠れた利益を見出すか、印刷物製作者の修正、他にコストを要する修正、チケットを探す時間等からどのようにコストを回収するかについて最も理解していた。Ampersandは、実装前のこれらの悲痛と、JDFがどのように彼らをこの悲痛から救ったかを、克明に解説している。」とあります。同社が統合したのは、Hiflex MISを含むdigital planning boardとShop Floor Data Collection、Kodak Prinergy Workflow System、Heidelberg Polar CompucutとHiflex Shop Floor Data Collectionです。5年間隔で計算されたROIは1815.8%でした。同社が記述した、多くの効率性の改良を幾つか挙げると：

- 最初の実装段階で34.78%の雇用を増員
- Prinergyで自動作業
- JDF StrippingParamsを基調とした、自動P取入Prepsインポジション・スキマ

- 消費材料の自動記帳
- 顧客からプリプレス・ワークフローへの扱いにくい統合
- 受信ファイルの自動処理
- 不必要な修正サイクル、作業の消去をなくす
- 透過と柔軟性の改善による、プリプレスでの販売生産性の増加
- 自動で、正確な切断作業プログラム(準備作業の大幅な削減)

特別にCIPPIの佳作としてカナダのMcCallum Printingと米国のR/T Associatesに授与されました。McCallum Printingには、「自動工程の導入により顧客対応の効率を格段に高めた功績」として佳作が与えられました。Heidelberg導入の同社は、初年度の年利(CAD)\$130万から、次年度の2006年には(CAD)\$175万まで年利益を伸ばし、事務員を1人増やしたただけでした。さらに際立っていたのは、本アワードの申請書に含まれていた5ページの同社の顧客対応に関する顧客からの証言でした。R/T Associatesには、「デジタルプリンティングによる顧客オーダーから納品までの、例外的レベルの自動工程を達成した業務」に佳作が称えられました。R/T Associatesは、Objective AdvantageのOASymbioを利用して、Saepioのweb-to-printフロントエンド・プロセッサとHewlett PackardのIndigo pressと、切断・切り込み・スジ入れを一台でこなせるDuplo DC-645を統合しました。R/T Associatesは、ほぼ全ての繰り返し手作業を排除し、1レベルの自動工程を達成しました。これだけでも、現場の仕事量は2倍になり、経営者の見積りでは、このソリューション無しでは最低5人の生産職員を必要としていたのを、増員なしで業務を遂行中。同社はまた、システム導入6ヶ月でこの投資に対する利益回収を達成しています。

CIP4 Executive Director のJames E. Harveyは、「CIP4に提出されるCIPPIアワードの応募を見ると、印刷業界の自動化の進化が毎年だんだんと高まっている。」と述べています。さらに、「今では当然となったが、3年前の印刷会社は、JDFをあちこちに繋げることのみを試していた。そして今ではend-to-endの統合や、印刷機器を超えて他の機器、多くの印刷機器にも統合されるようになった。これらの印刷会社は、単に自分達を再開発しただけではない。彼らは、印刷業界を再開発し、印刷業者であることの本来の意味を校正した。」

あらゆる印刷会社、プリプレスサービス、出版業者はCIPPIアワードに応募可能で、アワードは、ベンダー、印刷会社、プリプレスサービス、出版業者と提携関係の無い審査委員により審査されました。5人の審査員は、

- Patrick Cahuet, 1PRIME-conceptシニア・アソシエート(フランス)
- Stephan Jaeggi, Prepress-Consulting社長(スイス)
- 木村 哲雄, 株式会社プリンテクノ社長(日本)
- William C. Lamparter, PrintCom Consulting Group社長(USA)
- John Leininger, Clemson大学グラフィック・コミュニケーション学部教授(USA)

2007年CIPPIアワードを受賞しましたこの6人の受賞事例と名誉ある記載アプリケーションは、CIPPIアワードに関する詳細が掲載されています、こちらのホームページ (<http://www.cip4.org/cippi/>) からダウンロード可能です。CIPPIアワードはドイツ・ダルムシュタットのフラウンホーファー研究所の故ユルゲン・シェーンハット氏にちなんで命名されています。シェーンハット氏はCIP4とその前身であるCIP3コンソーシアムの両方の創設に貢献し、CIP4の設立メンバーでもありました。(故ユルゲン・シェーンハット氏についてのより詳しい情報は、以下のURLからご覧いただけます。 http://www.cip4.org/cippi/juergen_schoenhut.html)

About について

CIP4は印刷コミュニケーション、グラフィックアーツ業界においてベンダー、コンサルタント及びエンドユーザーを集め、そして様々な装置、ソフトウェア、周辺機器とプロセスを扱う部門関連携を達成しました。メンバーは業務定義フォーマット(JDF)、PrintTalkとプロセスオートメーションに関係があるその他標準を定義し；ユーザー要求を研究し；製品互換性をテストし；そしてJDFソフトウェア開発ツール領域を発展させる目的を持った、各ワーキンググループに参加します。CIP4についての情報は会員の詳細を含めて、組織のウェブサイト：<http://www.cip4.org> から入手可能です。又は連絡先はStefan Daun, Fraunhofer Institute for Computer Graphics, +49 6151 155 575, secretariat@cip4.orgです。全ての内容と考え方はCIP4ユーザーグループに従っており、その中に存在する知的財産CIP4の独占的財産としてCIP4に帰属します。

JDFについて

業務定義フォーマット(JDF)はグラフィックアーツ業界とその関連分野において、プロセスオートメーション及び異なるアプリケーションやシステムの融合を促進する為にデザインされた業界仕様です。JDFはまた、生産ワークフローへのビジネス・マネージメントと業務プランニング・アプリケーションとの融合を可能にします。JDFはW3C標準のXML(拡張可能なマークアップ言語)に準拠しており、インターネットシステムで異なるプラットフォームと導入済み環境の間において最大限の互換性を保証します。さらに多くの情報は、<http://www.cip4.org/>より入手可能です。